

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2009年6月

平成20年度 電気材料安全・規格委員会報告

1. 本委員会活動

電気製品の安全性確保に果たすプラスチックの役割の重要性を認識し、関係団体と協力して電気製品の安全規格やそれに使用されるプラスチック関連試験規格の国際統合化の動きに対し、業界の意向反映に努めた。

(1) UL94 5V 燃焼試験について、昨年に引き続き、当委員会を窓口として UL と交渉を行なった。UL の要請により、5V 試験方法についてのタスクグループに日本から乾、石渡特別委員が参加した。測定個人差を最小限に抑える接炎方法、治具の提案、会員各社の協力によるパイロットラウンドロビンテストへの6樹脂、12種類のテストピース提供を実施した。

(2) UL/ポリマーバリエーション

UL746A:2007, UL746B:2007

の不整合部分を次年度の STP 会議に見直し提案実施を目的に当委員会メンバーが分担して内容比較を行い、資料を作成、(株)UL Japan, UL/責任者と不整合部分の内容確認を行った。

2. (社)電子情報技術産業協会

(JEITA)との連携

電気材料安全連絡会を3回開催するとともに、JEITA と共同での調査を行う等、電気製品の安全や電気材料に関する規格等の案件を幅広く取り上げて情報交換を行った。

3. 外部委員会活動

3.1 電気用品部品・材料認証協議会の登録制度への対応

登録項目である「有機絶縁物類に使用温度の上限値」は、試験結果がでるまでに長時間を要するため暫定登録を認めていた。この暫定登録を本登録に移す動きがあり、来年度の工場調査のタイミングで本登録への移行確認の依頼を各登録メーカーに行う予定である。

3.2 電気安全に係る規格関連

(1) IEC/TC89 (耐火性試験)

フランクフルトおよびマルタの国際会議に乾特別委員を派遣し、関連規格の見直しの審議に参画した。

① IEC 60695-2-12 (グローワイヤ燃焼試験)、IEC 60695-2-13 (グローワイヤ着火試験)

日本から、試験の結果のばらつきを小さくするため、3試験片のうち1試験片のみが不合格の場合、新たに3試験片を追加で試験する等の提案を行った。また、新たに提案した P-GWIT (Proof-Glow-Wire Ignition Temperature) は、IEC 60695-2-14 として審議することになった。

② IEC/CD 60695-11-11 (火炎からの熱流束による着火性試験)

TS として発行した。ラウンドロビンテストを日本が計画する。

③ IEC 60695-11-10 (50W 火炎による燃焼性試験)、

IEC 60695-11-20 (500W 火炎による燃焼性試験)

プロジェクトチーム(乾特別委員がメンバー)による改訂案が出された。

改訂案には、日本提案の「5秒間バーナ固定法」が取り入れられた。

④ 旧 IEC 60695-2-20 (ホットワイヤ試験)

ばらつきが大きいと国際規格から削除されていたホットワイヤ試験が、製品安全委員会からの要求で、再度規格化の検討を行うことになった。

(2) IEC/TC108 (オーディオ・ビデオ、情報機器、通信技術分野における電子機器の安全性)

① HBSDT 分科会

TC108 の新しい安全性規格を IEC 62368 として開発中。昨年発行された CDV が規定以上の反対投票で否決されたため、合意の得られない項目を除外して CDV 再発行に向けて審議中。外部着

火による危険（ろうそく貫き火）の規格導入については、火災低減を唱える防災優先の意見と化学物質の拡散抑制を唱える環境優先の意見とが対立し、除外項目の一つとされ、規格の 2nd Edition で取り扱うことに決定。

②WG10 分科会

TC108 分野における環境関連規格検討のためのWGであり、1月にISが発行されたことを踏まえ、7月にはJIS原案作成検討会を発足させた。

(3)IEC/TC111（電気・電子機器、システムの環境規格）

①WG1（含有化学物質開示手順）IEC 62474 Ed.1

2009年3月現在、CD文書へのコメントを審議中。

②WG2（環境配慮設計）

IEC 62430 Ed.1

CDV投票が反対なく承認されたことからFDISをスキップしてISを発行する準備中。

③WG3（規制化学物質試験方法）IEC 62321 Ed.1

2008年12月にISが発行された。本規格は保守の容易さ、今後の化学物質追加等に対応できるようにするため、シリーズ規格に分割する予定。

(4)IEC/TC112（電気絶縁材料及びシステムの評価と認定）

①IEC 60112 Ed. 4.0（耐トラッキング性試験）

試験法で規定されているB液に従来使用されていた試薬が製造中止となり、試薬代替が規格本文に影響するか議論したが、改訂の必要無しとの結論に至った。

(5)UL関係

①ULの安全規格（UL796、746E）の改訂状況を報告した。

②UL STP（規格技術パネル）

ラスベガスでUL94、746、1692に関するSTPが開催され、石渡特別委員を派遣した。2006年に改訂されたUL746AのTable8.1及びWeb-SiteのPolymer Variationについて整合化する必要があるとの提案があった。

③UL94 5V 燃焼試験方法対応

Task Group 会議が開催され、日本から提案している「5秒間バーナ固定法」に改訂することに賛同が得られた。現在、ULでは、B位置接炎で試験が行われており、これを規格上で明確にする準備が進められていて、次のSTPで提案される。

以上

日本プラスチック工業連盟
電気材料安全・規格委員会